

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

6&7

JUNE / JULY
2010

CONTENTS

水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会……………	1
リゲティの肖像……………	2
茨城の名手・名歌手たち 第21回出演者オーディション……………	3
最近の公演から……………	4～5
インフォメーション……………	6



2009年7月、水戸室内管弦楽団第76回定期演奏会（指揮：準・メルクル）から

準・メルクルのメッセージ掲載!! 5度目の共演は、ルイ王朝の音楽と〈英雄シンフォニー〉

● 7/3(土)、4(日) 水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会

水戸室内管弦楽団(MCO)第79回定期演奏会は、指揮者に準・メルクルを迎えて実施します。準・メルクルがMCOのステージに登場するのは、今回で5度目となります。小澤征爾音楽顧問を除けば、準・メルクルほどMCOと共演を重ねている指揮者は、他にはいません。MCOが、未来を見据えて迎え入れた実力派指揮者——それが、準・メルクルなのです。

洋の東西を越えて

準・メルクルは1959年、ミュンヘンで、ドイツ人ヴァイオリニストの父と日本人ピアニストの母との間に生まれました。ハノーファー音楽院に学び、その後、チェリビダッケに師事。さらにタンゲルウッド音楽祭に参加し、バーンスタイン、そして小澤征爾に学んでいます。ドイツに生れ育ち、西洋文化を自身の根幹とする一方で、日本との関わりという点では、身体的な血の繋がりはピアニストの母から、そして日本人音楽家としての魂は小澤征爾から受け継いでいるのです。

一方、水戸室内管弦楽団は、日本人が西洋音楽を実践することの意義を探索しようというのが、大きな活動理念となっています。したがって、準・メルクルの実践とMCOの活動は、洋の東西を越えようとしている点で共通していると考えられます。準・メルクルとMCOのメンバーたちは、皆、同じ地平を目指す同志なのだと言えるでしょう。

満を持して挑むプログラム

今回のプログラムについて、ご紹介します。

◆R.シュトラウス：

クーブランのクラヴサン曲による舞踏組曲

ドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウスは、とても研究心が旺盛で、18世紀のフランス古典音楽にも興味をもっていました。その中でも、彼がとくに魅かれたのが、フランス・クラヴサン音楽の金字塔と言われている全4巻から成るフランソワ・クーブランのクラヴサン曲集でした。(ちなみに、クラヴサンとは、ドイツ語で「チェンバロ」、英語で「ハープシコード」と呼ばれている楽器のフランス語名です。)R.シュトラウスはこのクーブランの作品をもとに、演奏会用のオーケストラ曲を書こうと考えました。しかし、彼は、これらのクラヴサン曲を研究していくうちに、それらの曲は舞踏的な性格が強いことを発見し、舞踏組曲として構成する方がふさわしいと思うようになりました。そこで彼は、当時その任にあったウィーン国立歌劇場の音楽監督という地位を利用して、この劇場のバレエ団に、この曲を初演させようと考えました。そして、1923年のウィーンの謝肉祭の行事として、同歌劇場付属の小ホール、レドゥーテンザールで行われたバレエ公演で、この作品が初演されました。

原曲のF.クーブランの音楽は、隆盛を極めたヴェルサイユ宮殿を舞台に繰り広げられたルイ王朝の典雅さを反映するものであると同時に、詩的な情趣に満ち溢れるものでありました。そして、

R.シュトラウスが、その典雅な音楽に、室内オーケストラという規模ではあるけれど、近代に至って洗練を尽くした管弦楽の豊麗なる衣を纏わせたのです。

◆ベートーヴェン：

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55 〈英雄〉

ベートーヴェンが自身の聴覚の異常に気づき、「ハイリゲンシュタットの遺書」を残すほどの絶望を味わった後、再起して書いたのが〈交響曲 第2番〉でした。そして、それ以来、彼は新鮮な意欲に燃え、次々と作品を書き始めました。それがいわゆるベートーヴェンの創作の第2期(中期)のはじまりで、闘争的である一方で深く内省的な性格をもち、ハイドンやモーツァルトなどの影響から完全に離脱した個性的な傑作が次々と生み出されていくことになります。この第2期のはじめの傑作が、今回演奏される〈交響曲 第3番〉なのです。

〈交響曲 第3番〉の初版楽譜には、「シンフォニア・エロイカ(英雄交響曲)」という標題が付けられています。さらに「ある英雄の思い出のために」と書き加えられています。このことから、ベートーヴェンはある英雄を思い描きながらこの作品を書いたことがわかります。先に触れた通り、この作品が「ハイリゲンシュタットの遺書」の後に作曲されたことを考えると、この英雄とベートーヴェン自身とが、彼の心の中で同一化して、自分の危機への闘争やその克服といったものが織り込まれているのでは、と考える研究者もいます。

それでは、この英雄とは具体的には誰を指すのかと言うと、ナポレオンであろうと考えられています。ベートーヴェンはフランス革命の理念に共感し、自由と平和を実現するヨーロッパの共和化を推し進めようとするナポレオンに大きな期待を寄せていました。ところが、1804年にナポレオンが皇帝に即位した報せを耳にしたベートーヴェンは、結局はナポレオンも征服欲にかられた支配者のひとりには過ぎなかったと激怒し、当初この交響曲の総譜の表紙に書き入れた「ボナパルトと題する」という副題を消し去ってしまったのです。しかし、ベートーヴェンは現実のナポレオンには失望したものの、この交響曲では理想の実現に向かって突き進む、誇り高き闘争が高らかに歌い上げられています。200年の時を越えて、準・メルクルとMCOが〈英雄〉シンフォニーに、新しい生命を注ぎ込みます。

《中村》

準・メルクル氏から、水戸の聴衆の皆さんへ

水戸室内管弦楽団(MCO)は、非常に清新で生き生きとしたオーケストラです。おそらくそれは、MCOでは世界中から演奏家たちが集結してくるのですが、彼ら全員が、水戸でのおよそ1週間にわたる滞在中は、作曲家、そして水戸の聴衆のために、音楽作りに専心しようと強く望んでいるからだと思います。そして、このことが、お客様のMCOというオーケストラを聴く体験を、強く激しいものにさせているのだと思います。

ベートーヴェンの〈交響曲 第3番〉は、皆さんよくご存知だと思いますので、シュトラウスの作品をご紹介します。シュトラウスの〈舞踏組曲〉は、真にバロック期の音楽をベースにしています。フランスの偉大な作曲家クーブランは、愉悦と創造性に溢れ、時に斬新な和声と躍動する舞曲のリズムに彩られた組曲の作曲の名人でした。R.シュトラウスは、当時の「新古典主義」の潮流の中で、このバロック作品を取り上げ、近代の室内管弦楽団のために編曲しました。その作品は、新鮮で創意に富み、クーブラン

とシュトラウスという2人の偉大な作曲家の最高のコンビネーションの産物とも言える、素晴らしいものです。

さきほど言いました通り、毎年、演奏家たちが世界中から水戸芸術館にやって来ます。それは水戸の街が、演奏家たちに、彼らの人生で最も重要な部分である芸術創造の場を提供してくれているからであり、彼らは本当に水戸の街を訪れることを望んでいます。また、MCOのコンサートの客席には、いつも多くの若い学生たちの姿があります。その様子から、水戸の音楽教育の制度は驚くほど進んだものであり、世界に示す成功例となっているという結論に、私は達しました。そして、皆さん！私の愛すべき水戸市民の方々は、長い年月をかけてMCOを育ててきたことに、大きな誇りを持っていただきたいと思います！水戸は今や、世界中のクラシック音楽を愛する人たちの間で、とてもよく知られた名前になっています。7月に再び、水戸で皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。

準・メルクル

(協力：梶本音楽事務所)

国家や民族を越えた人類のあり様を希求する音楽

● 6/20(日) リゲティの肖像

優れた芸術作品は、時代を映す鏡であり、人生の意味、死、希望など、私たちの存在に関わる根源的な問いに対する、探究の足跡が刻印されていると考えます。芸術作品が宿命として持つ革新性の背景には、現状では掴み得ない命題を、新しい次元に移行することでその答えを見つけたいという、人類の切実な望みが託されていると思います。

水戸芸術館では、現代の作品を通して「今」という時代を知ることができないかという想いから、第二次世界大戦後に活動を行う作曲家たちの作品を特集する演奏会シリーズを実施してきています。2004年にルチアーノ・ベリオ、07年にピエール・ブレーズ、09年に高橋悠治を取り上げてきました。そして今回、この演奏会シリーズの一環として、ハンガリーの作曲家ジェルジ・リゲティの創作の軌跡をたどる演奏会を開催します。

2つの独裁政権

リゲティは1923年、ハンガリーのユダヤ人の家庭に生まれました。そして、その前半生に、彼は2つの独裁政権のもとでの生活を強要されました。最初はナチの政権です。1944年からハンガリーはドイツ軍の占領下に入っていました。そして、このナチ政権による弾圧が始まった最初の数カ月間で、ハンガリー国内のユダヤ人の大部分にあたる約40万人もの人々が虐殺されました。リゲティの父、兄、多くの親戚も命を奪われています。リゲティ自身はユダヤ人強制労働者としてハ

ンガリー軍に召集されていたために、辛くも一命をとりとめました。後にリゲティは次のような言葉を残しています。「私はナチの専制を体験したあと、政治機構に対しては根の深い嫌悪をもつようになっていた。この傷が癒えることはないだろう。私は死ぬまで、復讐という幻想を捨てようとは思わない。西欧の「同僚たち」にはこのことは決して分るまい。」

第二次世界大戦が終わり、ソ連軍が進駐してきた時、ハンガリーの人たちは、ナチ政権は崩壊し、自分たちは解放されたと思い、歓喜しました。ところが、そのわずか3年後に、今度は共産党独裁体制による新しい抑圧が始まりました。芸術家たちに許されたのは、社会主義の理念に沿うべく大衆を扇動するような、「社会主義リアリズム」という名の政治的なプロパガンダでしかありませんでした。現代芸術は完全に弾圧され、西側の情報も一切遮断されていました。1956年10月、ハンガリー動乱が起き、それに乗じて20万人とも言われる人々が、わずか2週間の間に国境を越え、西側に亡命しました。その群れの中にリゲティもいました。亡命後のリゲティは、ウィーンやケルンなどで活動を行い、西側の前衛芸術を急速に吸収し、自らの作曲スタイルを劇的に変化させていきます。

20世紀の人類の愚行ともいえるファシズムに傷つけられたリゲティは、第二次世界大戦後に、国家・民族を越えた新しい人類のあり様を希求して立ち上がりました。新しい時代を築くために、彼

は革新的な音楽の創造を目指していくことになるのです。

抑圧を越えて響き渡る、リゲティの音楽

現代の音楽作品の中でも、とりわけ多くの人に支持され、聴かれているのがリゲティの作品です。今回演奏される作品について、ご紹介していきます。

[プレ演奏①：リゲティのオルガン曲]

6月20日の公演当日の13時15分からエントランスホールでお届けするのが、リゲティのオルガン作品です。〈リチェルカーレ〉(1951)は、ハンガリー時代の作品で、フレスコバルディの〈クレドの後の半音階的リチェルカーレ〉(1635)の主題を用いて書かれています。もう1曲は〈ヴォル・ミナ〉(1961/62)。プレーメンでの初演では、その壮絶な音響からオルガンへの負荷があまりに大きかったために、電気回線がショートし、パイプから煙がもくもくと出て、金属でできた機械部分はごとごとく溶けてしまったという伝説が残っています。

[プレ演奏②：〈100台のメトロノームのためのポエム・サンフォニック〉(1962)]

オルガン演奏に引き続き、場所をコンサートホールに移して14時からお贈りするプレ演奏です。メトロノームを楽器として扱った〈ポエム・サンフォニック〉をご紹介します。演奏には100台のメトロノームを必要とします。どのような音楽



ジェルジ・リゲティ
Photo: H.J.Kropp / Schott Promotion



アルディッティ弦楽四重奏団
Photo: Philippe Gontier



東京混声合唱団

かは当日のお楽しみ! 実現のために、水戸市教育委員会のご協力の下、水戸市内の小中学校からメトロノームをお借りします。多くの方々のご協力に、心より御礼申し上げます。

ここからは、15時からの本演奏会で取り上げる作品を紹介していきます。

◆弦楽四重奏曲 第1番〈夜の変容〉(1953-54)

共産党独裁体制のハンガリーで作曲された作品。ハンガリーの国民的な作曲家で、反ファシズムの英雄とみなされていたバルトークの音楽の影響下で書かれた作品です。さらにこの作品ではベートーヴェンの〈ディアベリ変奏曲〉も規範としています。当時は公開が許されなかった作品で、秘密裡にリゲティは書いていたのです。

◆ライヒとライリーのいる自画像(背景にシヨパンもいる)(1976)

アメリカの作曲家スティーヴ・ライヒやテリー・ライリーは、短い旋律やリズム・パターンを何度も繰り返す「ミニマル・ミュージック」の創始者とされています。実はリゲティも、ライヒやライリーの作品を知る前から、彼らと共通する構想を持っていました。この作品は、そんなリゲティのミニマル音楽です。2台のピアノのために書かれています。

◆ピアノのための練習曲集

リゲティ後期の最大の傑作のひとつと評されているのが〈ピアノのための練習曲集〉。その演奏には高度の名人芸が要求されます。今回はこの曲集から3曲が演奏されます。〈ワルシャワの秋(1985)〉は、ひとりのピアニストが2種類、3種類、ときに4種類の異なったテンポをもつ旋律を同時に演奏しているように聴こえるような仕掛けが

施されています。〈虹(1985)〉は、ジャズ・ピアノの技法から影響を受けて書かれた作品です。〈悪魔の階段(1993)〉は、無限階段を想わせる上行音型が猛烈なスピードで繰り返される、まさに「悪魔的」な作品です。

◆無伴奏ヴィオラ・ソナタ(1991-94)

この作品によって、真にリゲティはグローバルな音楽を成し遂げたと言えるのかもしれませんが。教会法からバッハなどを経て発展した西洋古典音楽。調性から離れ、新しい音楽の創造を目指した前衛音楽。そして始原の響きをもつ民族音楽。〈無伴奏ヴィオラ・ソナタ〉では、これらが見事に融合しているのです。

◆弦楽四重奏曲 第2番(1968)

亡命後の1957年に、リゲティはケルンの西ドイツ電子音楽スタジオに赴いています。このスタジオで多層的な音響を作り出した作曲経験と、ハンガリー時代から親しんでいたオケゲム、ジョスカン・デ・ブレなどのポリフォニー様式に関する知識とを統合して、リゲティは「マイクロ・ポリフォニー」という作曲技法を案出しました。それは、特定の主題や輪郭を持たない一方で、多様な音響体が多層的に組み合わせられる、非常に密度の濃い音の織物であると言えます。〈弦楽四重奏曲 第2番〉では、この「マイクロ・ポリフォニー」の手法が用いられています。

◆ルクス・エテルナ(永遠の光)(1966)

無伴奏の16人の混声合唱による感動的な作品で、その響きの美しさからキューブリックの映画「2001年宇宙の旅」でも使用されました。カトリックにおける死者のための聖餐という意味を持つ音楽です。これも「マイクロ・ポリフォニー」

による作品で、16の声部がすべて異なる旋律を歌います。その音の密度がとても高いために、個々の声部は聴き取れず、結果として切れ目なく移り変わっていく和声的な流れだけが知覚されることになります。リゲティが夢見た「永遠の光」とは、どのようなものであったのでしょうか。このコンサートを通じて、皆で探求できればと思っています。

現代音楽のエキスパートたち

今回の演奏会では、現代作品の演奏のエキスパートとも言える国内外の演奏家たちが集結します。プレ演奏でオルガンを弾くのは、その切れ味の鋭い演奏で、たくさんの聴衆を魅了する近藤岳さん。アルディッティ弦楽四重奏団は、かの巨匠ブーレーズが「極めつきの現代音楽“大使”だ。彼らの手にかかると、今日の音楽が腑に落ちる。だからもっと聴きたくなるのだ。」と大絶賛している、当代随一のクアルテットです。ピアノの難曲に挑むのが中川賢一さんと小坂圭太さんです。そのエネルギーな演奏が聴衆を高揚へと導いてくれることでしょう。そして、最後に登場するのが、わが国が誇るプロ合唱団の最高峰、東京混声合唱団です。合唱指揮は、チョン・ミョンフンや広上淳一に学んだ若き俊英、松井慶太さんです。

また、演奏会では、音楽学者の白石美雪さんの解説を挟みながら進行しますので、現代作品にはあまり馴染みのないという方も、心配はご無用です。私たちが生きる「現代」に生み出された音楽を体験なさりに、どうぞコンサートホールにご来場ください。 〈中村〉

オーディションは無料公開！ 明日の「名手」はここから生まれます。

● 6/13(日)「茨城の名手・名歌手たち 第21回」出演者オーディション

茨城県に関わりのある音楽家を広く紹介し、県内や全国の音楽シーンに新しい才能を送り込んできた「茨城の名手・名歌手たち」。1990年の水戸芸術館開館以来、毎年継続している企画で、今年で第21回を迎えます。今回は、「鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル」が対象です。(参加申込はすでに締め切りました。「管楽器・打楽

器・声楽・器楽アンサンブル」は次回の対象になります。)

6月13日(日)に開催する出演者オーディションは、審査の様様を無料で一般公開いたします。次代を担う音楽家の誕生に間近に接する貴重な機会です。ぜひ足をお運びください。参加者は、5～6分の持ち時間の中でベストを尽くすべく、

懸命に演奏します。たとえその演奏が完璧、無傷なものではなかったとしても、音楽に対する純粋でひたむきな姿勢は、客席で聴く私たちにも勇気を与えてくれるでしょう。

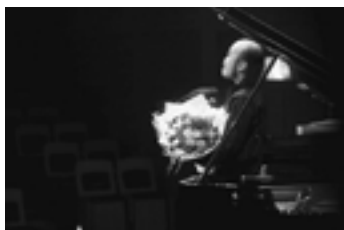
このオーディションを通過した若い音楽家たちは、11月27日(日)に開催予定の本演奏会に出演します。どうぞご期待ください! 〈関根〉

最近の公演から

MARCH
APRIL



1



2



3



4



5



6

モーツァルト：

ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第6回】(3月6日)

演奏とお話：野平一郎

2008年から1年に2回ずつ3年にわたりお送りしてきたモーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会が最終回を迎えました。当夜は第16番から第18番までの後期ソナタを中心に、最後はモーツァルトの死の年(1791年)に作曲された(自動オルガンのためのアンダンテ K.616)でティクルス全体を締めくくりました。アンコールは、(6つのドイツ舞曲 K.509)と〈トルコ行進曲〉。

全6回にわたる全曲演奏会も終わってみればあっという間でしたが、各回の内容を思い返すと、大変充実したティクルスを開催してこられたのではないかと、担当者は胸をなでおろしています。

全曲を演奏するだけでなく、お話も快く引き受けてくださった野平一郎さんには、本当に感謝です。お話の内容は、演奏する曲についてばかりでなく、モーツァルトの人生、作曲家をとりまく社会環境、音楽史の流れ、楽器に関する考察など多岐にわたりました。聴きに来てくださった皆様が、このお話と研ぎ澄まされた演奏によって、作曲家モーツァルトの存在がぐっと身近に感じられ、人生の糧となるような作品と出会えたのなら幸いです。

なお、ナミ・レコードからCDの統編(第3弾までは既発売)も順次リリースされる予定ですので、演奏会の余韻とともに楽しみください。《関根》

アンケートから●最高に良かったです。2台ピアノの回も拝聴しましたが、今回のようなソロも素敵でした。命の洗たくができました。(K.O.さん) ●全6回、毎回とても楽しみにしていたコンサート、今日で終わってしまうのはとても残念です。パンフレットの曲目解説は他のどの解説書よりもきつと役にたつのではないかとと思っています。(ひたちなか市：A.T.さん) ●曲目解説は、すべて音楽学者の安田和信さんにご執筆いただきました。●野平さんの弾き方がとても好きです！音がとってもキラキラして聴こえます。(ひたちなか市：K.N.さん) ●CDで飽きるほど聴いてきた曲のはずなのに、何故生で聴くとこんなにも優しく心に訴えかけてくるのか、不思議でなりません。(水戸市：N.H.さん) ●野平さんのステキな演奏をいつまでも聴いていたかったです。あんなにきれいなK.545は初めて聴きました。(無記名の方)

後藤晴美 フルート・リサイタル(3月21日)

水戸市在住のフルート奏者・後藤晴美さんのリサイタル。ヴァイオリニストの片見京子さんと市民オペラ《魔笛》(1993年)や(水戸の街に響け300人の『第九』)などで水戸芸術館のステージに度々出演されているピアニストの小林由佳さんがゲスト出演した。廣瀬量平、ミヨーのフルート・ソロ作品、ゴッペルとマルティヌーの合奏作品、J.S.バッハの〈音楽の

捧げもの〉の中の“トリオ・ソナタ 八短調”が演奏された。バロック時代に製作されたフルート・ダモレの演奏は、後藤さんがライフワークとしているユニークなアプローチだ。アンコールはJ.S.バッハの〈音楽の捧げもの〉より“王の主題に基づく無限カノン”とバッハ/グノーの〈アヴェ・マリア〉(中村)アンケートから●フルートとヴァイオリンの音色がよく合っていました。ピアノのバランスも良かったです。(土浦市：A.N.さん) ●三者三様のコラボレーションが素晴らしく、聴きごたえがありました。(水戸市：M.N.さん)

アミーチ・カルテット演奏会(4月1日)

水戸室内管弦楽団メンバーの川崎洋介(ヴァイオリン)と原田禎夫(チェロ)、そして元イ・ムジチ合奏団リーダーのフェデリコ・アゴスティーニ(ヴァイオリン)と、ドイツ・トロッシンゲン音楽大学教授のジェームズ・クライツ(ヴィオラ)の4人から成るアミーチ・カルテットの演奏会。「ハイドンの弦楽四重奏曲全曲演奏」という壮大なプロジェクトの第2回目となった今年も、ハイドンが書いた約70曲ある作品の中から4つ演奏。音楽を奏でるみずみずしい喜びがあふれる彼らの演奏は、互いに主張し、調和しながら展開していく弦楽四重奏ならではの醍醐味を存分に味わわせてくれるものだった。《高巢》アンケートから●アミーチ・カルテットの演奏を初めて聴きました。さすが素晴らしいです！(那珂郡：F.F.さん) ●透明感のあるハーモニー、躍動する明確な旋律、繊細で優美で…まさに夢のように最高でした。(水戸市：無記名の方) ●ハーモニーに透明感があって、上質な音楽を聴いているという実感が湧いてきました。聴き手の方も、クラシック音楽の基本中の基本に回帰したような想いです。(無記名の方) ●アミーチ・カルテットの息のあった豊かな音色で、心地良く素晴らしい演奏を愉しませていただき満足です。(無記名の方) ●実に生き生きとした音色に感動しました。アミーチは間違いなく現代最高のカルテットのの一つだと思います。(那珂郡：Y.T.さん) ●演奏が素晴らしいのは言うまでもありませんが、ホールの響きの良さに改めて感銘を受けました。(N.H.さん)

MCOアカデミー[講師：アミーチ・カルテット]
公開セミナー&演奏会(4月2日～5日)

将来のMCOに参加してもらえるような、優れた若手演奏家育成のための「MCOアカデミー」。ここでは、アミーチのメンバーと若手演奏家が4つのカルテットに分かれ、ハイドンの弦楽四重奏曲に取り組んだ。2日目・3日目の公開セミナーでは、全てのカルテットが舞台上で演奏し、その後皆で意見を交わして、互いに学び合うやり方で行われた。一つの演奏に対するアミーチのメンバーや受講生の様々な

1～2. モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第6回】

3～4. 後藤晴美フルート・リサイタル

5～6. アミーチ・カルテット演奏会



1



2



3



4



5

反応や、時にはジェスチャーも交えての活発なやり取りに、会場へいらしたお客様も興味津々のご様子だった。

最終日の朝には、普段なかなか音楽会に出かけられない方に生演奏をお届けしたいという思いから、アウトリーチプログラムを行った。会場は茨城県立こども病院。4つのカルテットが楽器紹介を交えながら、入院中の子どもたちを前に弦楽四重奏曲を演奏した。

その夜の発表演奏会では、冒頭に原田さんと川崎さんから挨拶があり、その中で川崎さんが「このプロジェクトは、受講生にとっても講師にとってもチャレンジである」とおっしゃっていたのが印象的だった。受講生も先生も、作品の前では同一人の演奏家。その音楽のキャラクターを鮮やかに表現するために、各カルテットは朝から晩まで切磋琢磨しながら演奏に磨きをかけたのである。そうして、演奏会で若々しい熱演を披露した4つのカルテットには温かな拍手が送られ、会場は爽やかな余韻に包まれた。受講生の皆さんのさらなるご活躍をお祈りしております!《高巢》

小さな聴き手のためのコンサート ピーターとおおかみ (4月29日)

ゴールデンウィークの初日に開催した、親子で一緒に楽しめる「小さな聴き手のためのコンサート」。フルートの工藤重典さん、オーボエの南方総子さん、クラリネットの鈴木豊人さん、ファゴットの岡崎耕治さん、ホルンの猶井正幸さんら、管楽器の名手が集まったの木管五重奏で、4曲のアンサンブルと《ピーターと狼》をお届けした。その合間の、女優・中井貴恵さんによる元気で親しみやすいトークと、和気あ

1~2.MCOアカデミー公開セミナー&演奏会
3~5.小さな聴き手のためのコンサート ピーターとおおかみ

いあいとした演奏家たちのユニークな楽器紹介に、会場の子どもたちも大盛り上がり!そして《ピーターと狼》では、ファンタジーあふれる美しい照明演出(デザイン:成瀬一裕さん)を背景に、聴いている人をお話の世界にぐいぐい引き込むような朗読と、今にも登場キャラクターが現れそうな生き生きとした木管五重奏の演奏で、ピーターと動物たちの愉快な冒険物語が綴られた。《高巢》

アンケートから●初めて木管五重奏を聞きに参りましたが、演奏も語りも進行も大変よかったです。リラックスして聞くことができました。またこのような親子で楽しめる企画を楽しみにしています。(水戸市:M.Y.さん)●楽しかったです。1時間がちょうどいいですね♪(水戸市:A.I.さん)●各楽器の説明があり、音楽を身近に感じることができました。(無記名の方)●とても良い企画でした。楽器の紹介や、各パートのメロディを演奏して最後に全員で合わせたのが、音楽の作りがわかって良かったです。(無記名の方)●子ども向けということで、楽器の説明などがあって、全く知識のない大人でもとてもよく分かり、リラックスして楽しむことができた。司会もあり、わかりやすくとても良かった。また企画してほしい。どうもありがとう。(ひたちなか市:M.S.さん)

楽器の王様・パイプオルガンを弾いてみよう!

「夏の夜のオルガン探検」(8/22) 高校生の参加者大募集!!

今年の夏、水戸芸術館では高校生を対象に、天上からふり注ぐような荘厳な音を奏でる楽器の王様「パイプオルガン」を楽しむプログラムを開催します!この「夏の夜のオルガン探検」では、パイプオルガンの仕組みについて知ったり、オルガニストの演奏を間近で聴ける他、「あなた自身も弾いてみよう」コーナーも設けています!「とにかく鍵盤にふれて、自分で音を出してみたい」という人はもちろん、「あの曲をパイプオルガンで弾いてみたい」という人にとっても、エントランスホールにあなたが奏でる音を響かせることのできる、貴重なチャンス!

演奏とお話は、「幼児のためのオルガン見学会」でも親しみやすく明るいキャラクターで大人気のオルガニスト・浅井美紀さんがつとめます。ご応募をお待ちしております!

■「夏の夜のオルガン探検」

開催日:8月22日(日)18:30~20:30(開場18:15)
定員:20名
対象:高校生
参加料:1人500円※当日お支払い下さい。
申込切:7月10日(土)必着 ※応募多数の場合は抽選。
応募方法:住所・氏名・電話番号を明記し、往復はがきを下記までお送り下さい。
宛先:〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
「水戸芸術館音楽部門
夏の夜のオルガン探検係」

□プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル

この前日には、浅井美紀さんが出演するプロムナード・コンサート 夏休みスペシャルを開催します(8月21日[土]1回目:12:00~2回目:13:30~※各回30分程度、入場無料)。小さなお子さんから大人まで、ご家族皆で楽しんでいただける特別なプログラムをご用意しておりますので、こちらにもぜひお越しください。



information

- チケットに関するお問い合わせ
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

《第九》コーラス参加者募集!

水戸芸術館では、年末に開催する「水戸の街に響け! 300人の《第九》」のコーラス参加者を募集いたします。詳しくは、応募要項をご覧ください。

公演日: 2010年12月12日(日)

演奏曲目: ベートーヴェン(交響曲第9番)第4楽章

応募資格: 9月～12月に水戸芸術館で行う練習に参加できる方(経験不問)

参加料: 2,000円 申込締切: 7月31日(土)

応募要項の請求方法

- ① 水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンターにて直接入手
 - ② 水戸芸術館ホームページからダウンロード
 - ③ 80円切手を貼付し返信先を記入した定形封筒を同封の上、下記宛郵送
- お問い合わせ: 水戸芸術館音楽部門《第九》係(担当: 関根・高巢・大金)
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL: 029-227-8118 FAX: 029-227-8130

チケット・インフォメーション

《6月12日(土)発売分》

- ◎小菅 優 ピアノ・リサイタル
9/11(土)18:30開演 料金(全席指定): ¥3,500
- ◎水戸室内管弦楽団 第80回定期演奏会
10/9(土)18:30開演、10/10(日)14:00開演
料金(全席指定): S席 ¥6,000/A席 ¥5,000/B席 ¥4,000

《6月13日(日)発売分》

- ◎あひるの会合唱団
9/26(日)14:00開演 料金(全席自由): 一般 ¥1,500 高校生以下 ¥700
 - ◎ぐるっぺ・ローゼン～続・オペラと出逢う日～
10/2(土)17:00開演
料金(全席自由): 一般 ¥3,000 学生(大学生以下) ¥1,500
 - ◎アンサンブル奏
10/24(日)14:00開演 料金(全席自由): 一般・前売 ¥2,000/当日 ¥2,200
高校生以下・前売 ¥1,000/当日 ¥1,100
 - ◎東京藝術大学音楽学部同声会茨城支部
10/31(日)14:00開演 料金(全席自由): 一般 ¥2,500 学生 ¥1,500
- ※水戸室内管弦楽団第80回定期演奏会には、6/8(火)より運営維持会員、6/9(水)より友の会会員の先行電話予約がありますので、6/12(土)の一般発売の時点で、券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

これからの演奏会・残席情報

- …残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
 - ◎リゲティの肖像……………6/20(日)中央○、左右○
 - ◎水戸室内管弦楽団
第79回定期演奏会……………7/3(土)中央×、左右×、補助○
……………7/4(土)中央△、左右×裏△
- ※5/13(木)現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な6・7・8月のスケジュール

コンサートホールATM

- 「茨城の名手・名歌手たち 第21回」出演者オーディション
6/13(日)入場無料 ※詳細はお問い合わせください。
- リゲティの肖像
6/20(日)[プレ演奏会]①パイプオルガン・コンサート 13:15開演 入場無料
②100台メトロノームのためのポエム・サンフォニック” 14:00開演
※ご入場には演奏会チケットが必要です。
[演奏会]15:00開演 料金(全席指定): 一般 ¥3,500 学生 ¥1,000
- 水戸室内管弦楽団 第79回定期演奏会
7/3(土)18:30開演、7/4(日)14:00開演
料金(全席指定): S席 ¥8,000 A席 ¥6,500 B席 ¥5,000

■第43回水戸市芸術祭

- 市民音楽会 7/10(土)、7/11(日) 各日13:00開演 入場無料
- 少年少女合唱祭 8/1(日) 14:00開演 入場無料
- ジュニアオーケストラ 8/22(日) 14:00開演 料金(全席自由): ¥500

エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート
6月: 6日(日)、12日(土)、26日(土) 7月: 18日(日)、24日(土)、25日(日)
8月: 7日(土)、8日(日)、29日(日)
- (夏休みスペシャル)8/21(土)オルガン: 浅井美紀
開演時間: 12:00/13:30(2回公演) 入場無料 ※演奏は各回20分程度です。
- (夏の夜のオルガン探検)(高校生対象)8/22(日)18:30～20:30

ACM劇場

- ACM Bookmobile 『ACM塩谷 亮がよむ「太宰 治の世界」Vol.2』
6/5(土)、6(日)各日19:00開演 料金(全席自由・要予約): ¥500
- ACM ファミリーシアター『走れメロス』
6/19(土)14:00/18:30開演、6/20(日)16:00開演
料金(全席指定): おとな ¥1,500 こども ¥800
- ACM Bookmobile『ひとつの装置』
7/19(月・祝)14:00開演 料金(全席指定): ¥800
- 『子どものためのシェイクスピア』『お気に召すまま』
7/30(金)19:00開演、7/31(土)14:00開演
料金(全席指定): [A席] おとな ¥3,000/こども ¥1,800(中学生以下)
[B席] おとな ¥2,000/こども ¥1,200(中学生以下)

■第43回水戸市芸術祭

- 謡と仕舞の会 6/27(日)10:00開演 入場無料
- バレエ・フェスティバル 7/4(日)14:00/16:00開演 料金(全席指定): ¥500
- 三曲各流演奏会 7/11(日)13:00開演 入場無料
- 演劇フェスティバル
- 舞踊劇団「創」[うまれる]「神能&ロック&サルサ」8/20(金)18:00開演 料金: ¥1,500
- 演劇事務所「99破壊ランナー」8/21(土)18:00開演 料金: ¥1,500/高校生以下 ¥1,000
- 劇団たっつあい「頼田のたっつあい」(うそくらべ) 8/22(日)16:00開演 料金: ¥1,000
- プロフェッショナルファウル「サマージャム2010」8/27(金)19:00開演 料金: 前売 ¥1,000/当日 ¥1,200
- キミトジャグジー「骸～MUKURO～」8/28(土)18:00開演 料金: ¥1,500
- 劇団OH-NENS「ネットで捕まって Caught in the Net」8/29(日)16:00開演 料金: ¥800

現代美術センター

- 水戸市芸術祭特別展 水戸の風 二〇一〇
水戸市文化栄誉賞受賞記念 能島征二の軌跡展
5/30(日)～6/27(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)
休館日: 月曜日 入場料: 一般800円、前売・団体(20名以上)600円
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

■第43回水戸市芸術祭

- 美術展覧会
第1期[日本画・洋画・彫刻・工芸美術] 7/4(日)～16(金)9:30～18:00(入場は17:30まで)
第2期[書・写真・デザイン・インスタレーション] 7/21(水)～8/1(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)
休館日: 月曜日 入場無料
- 新次元ーマンガ表現の現在
8/14(土)～9/26(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで
休館日: 月曜日 ※9/20(月・祝)は開館、翌9/21(火)休館
入場料: 一般800円、団体(20名以上)600円
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

茨城の主な6・7月の演奏会 ※有料公演のみ

- ◆佐川文庫 TEL/029(309)5020
■林美智子 メゾソプラノ・リサイタル(ピアノ 野平一郎) 6/12(土)18:00開演
- ◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166
■第36回茨城県新人演奏会 6/13(日)13:00開演
■外山啓介ピアノリサイタル 7/11(日)14:00開演
- ◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521
■第35回茨城大学管弦楽団 サマーコンサート 6/26(土)14:00開演

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2010年5月発行 第149号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL: 029-227-8118 FAX: 029-227-8130
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]
編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順): 伊東慶子 大金絢子 関根哲也 高巢真樹 中村晃
DTP/村田征司[株式会社イセブ] 次号は…
印刷所/株式会社あけぼの印刷社 あの大変ピアニストの待望のリサイタル!